

24 金満家ダイヴィーズの和平

- 地獄でもだえ横たわるダイヴィーズに神の言葉が下った
「この世は悪に満ち 我が子らは互いに傷つけ 互いに殺しあっている
聖者も賢者も予言者も
払い浄め 予言し 祈るばかりで
この世を良くできぬ 5
- 「^た起て ^た起つのだ 汝ダイヴィーズよ 再び金を持って
妻らも家屋敷も昔同様お前のものとするがよい
地獄の業火に縛りしお前を見つけたは
我が恩寵と思え
我が子キリストが予言せし 平和をもたらせ」 10
- ダイヴィーズは喜び 業火より飛び出し
主の望み通りにしよう と 心をください 現世を^{かっば}闊歩した
するとたちまち戦争は止んだ
^{とら}囚われたものは解放され
この世はゴセンから^{やす}ゲラサまで息むことを得た 15
- ひとり怒り狂うサタンに神の言葉が下った
なぎ倒された大砲のそばで 人々が歓喜の声を上げる中
予言者も聖者も賢者も
互いになじりあい
この突然の和平は自分もたらしたものだ と主張した 20
- 「^た起て ^た起つのだサタンよ 地上へ行け
ダイヴィーズの和平とやらが嘘か^{まこと}真か とく調べよ
ダイヴィーズがもくろんだ全てを
お前の手^{ゆだ}に委ねる
壊すも^{おとし}貶めるも お前の腕次第」 25
- サタンは威風堂々立ち上がり 地上をめぐった

平和ボケした王たち 自惚れで祝杯を上げ続ける王子たちをけしかけた
サタンがどれほど悪事をけしかけようが
刃は鞘から抜かれることはなく
いかにサタンが争いの火を焚きつけても その火は弱まり消えてしまった 30

サタンは腹を立て 地上をあまねく黒雲で覆った
ついに高利貸しがたむろする所で 狡猾なダイヴィーズと邂逅した
そこで見たものは 商売道具をかたに
槍や鎧兜よろいかぶとを買うための
金を得ようとする男たち 35

見よ 死の商人ダイヴィーズに群がるはペルシア シリア メディアの人々
狡猾さも貪欲さも 昔とちっとも変わっちゃいない
大国の王をやっつける武器を買うため
家畜田畑でんばた抵当に入れ
ダイヴィーズはそれで客の欲しいものを用立てた 40

サタンはダイヴィーズに言った「俺と共に地獄へ戻れ
地獄から解き放たれた途端 主の命令に背いたからだ
私欲のためにあくせくと
人の飢餓や貧困につけ込み
人血を汚い高利の担保にしているからだ 45

すると高利貸し仲間の中にいたダイヴィーズはおだやかに言った
「わたしの安息の場は主のところしゅです 地獄の主ぬしよ
見なさい 地上はいま
わたしがこさえた和平の真ただ中
それを乱すためあなたに仕えよとおっしゃるのですか 50

激怒したサタンは躡きびすをかえし 七つの海をめぐり
あらたに生まれた国の人々を 怒りと猜疑心と恐怖でたきつけた
だがいかなる手を使っても
大部隊を派兵し戦争などするものはいなかった
投げた火の粉は 飛びつつも弱まり 落ちて消えた 55

一方ダイヴィーズのもとにはアトランティスと西国の将軍たちがやって来た
彼らの憎悪 怒り 動揺は収まらず

高価なものを質入れし
冷血な宣戦布告の武器に変えた
ダイヴィーズは彼らに金を貸し まんまと宝物をせしめた 60

サタンはダイヴィーズに言った「御名^{みな}にかけ教えてくれ
お前^{こうち}の狡知は俺に勝る
地獄中知らぬものとしてない
いかに多くの民が 俺のペテンを嘲^{あざけ}るか
信義をわきまえぬ王どもは 俺が来る前にもうそっぽを向く」 65

すると狡猾きわまるダイヴィーズは答えた「金と憎悪は
すべてのペテンの要ではありませんか それに根拠のない恐怖も
金と恐怖と憎悪でもって
国家と国家をつなぎ
憎悪と恐怖と金でもって 敵愾心がお互い結び合うのです 70

憎悪があるからこそ武器が欲しいのです 恐怖があるから盾^{たて}が要るのです
凶暴なる隣国より鋭い刃と幅広い丸盾が要るのです
だからわたしは金で手に武器をもたせるのです
金で土地を買い上げてやるのです
金の力で相手国にも儲けさせるのです 75

近くの敵には売り 遠くの友には貸してやります
一国 また一国と 古^{いにしえ}のアッカドから海に浮かぶ島々まで
抜き身の刃^{刃久保}怖さに
同盟を結ばせる
こうしてわたしはあえて武装させ 国々を和平へと落とし入れるのです 80

エジプトが金と引き換えに渡した家畜をわたしはアッシリアに売りました
アッシリアのサルゴンはその家畜を殖やしてエジプトのファラオに売るので
アシドドを倒すとしても
王たちは自分で自分の国を滅ぼしたりしない
また民は戦^{いくさ}が始まって本気じゃなくそのふりをするだけです 85

カルケミシュはカルノと同じではありませんか 軍馬を手に入れるため
彼らは七年分の収穫をわたしに売り それをわたしは冠輝くツ口に転売する
するとツ口人^{びと}は千台の荷車を借りて積み込み

平原地帯を縦横無尽に売りさばく
その結果 あたりの都市は和平を保ち 収穫物を分かち合うことになるのです 90

またモアブの高慢をご覧になりましたか 行く先々で剣^{つるぎ}を求め
自分の財産の半分を 証文としてペリシテ人に握られている
ガザにアスカロンとガテからの解放を
約束されない限りは
剣を抜こうともしない 95

もう一度民をけしかけてくれませんか もう一度王たちを殺戮へと導いてくれませんか
そうすればわたしの稲妻はあなたの眼前を走ります
惰眠^{むさぼ}を貪る町が動き出すまでに
僕^{しもべ}はこそこそと夜陰に紛れて 秘密の伝令に走ります
そして諸国は一斉に断食^{ラマダン}をやめ 事に取り掛かるでしょう 100

だからわたしは奇跡^{たわごと}を戯言^{わら}と思い 時や地理空間を嗤うのです
覆うもののない大海を宿とし この大地を商いの場所にするのです
さもしい商人どもは どの国も
互いに敵を担保にしているのです
同じ穴の貉^{むじな}同士で生き延びているのです 105

さあ以上がわたしの策略のすべて 知恵のすべてです
主^{しゅ}があなたに良い知恵を授けますように 地獄^{ぬし}の主よ
ご覧ください この地はいま
わたし奴^めがこさえた和平^{むさぼ}を貪っております
それを乱すためあなたに仕えよとおっしゃるのですか」 110

(榊井幹生訳)